

2022 年度 4 年次アンケート調査の結果報告

本学では、毎年 12 月～3 月にかけて、4 年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「4 年次アンケート」と表記）を行っている。このアンケート調査は、学部最終学年である 4 年次の学生が、本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。ここでは、2022 年度に実施した 4 年次アンケートの主な項目の分析結果を中心に報告する。なお、回答人数が少なくかつ旧課程の専攻である史学専攻（1 名）、英語文学文化専攻（2 名）、言語科学専攻（2 名）は、分析の対象から除いた。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：質問紙調査

対象：東京女子大学に在籍している 4 年次学生、918 名（2023 年 1 月 1 日時点）

調査期間：2022 年 12 月 13 日～2023 年 3 月 28 日

有効回答数：743 名

有効回答回収率：80.9%

調査項目：アンケートの調査票は「基本事項」、「学業」、「学生生活」、「課外・学外の活動」、「学修支援」、「進路」、「その他」（自由記述）の項目で構成している。

本報告書では、「学業」に関する項目から、大学 4 年間の学生生活を通じての授業に対する満足度や、身についたと思うスキル・能力等を報告する。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（ p 値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ η^2 ）のみを報告する。なお、 η^2 については、Cohen(1988)の基準 $\eta^2 = .01$ (small) , $\eta^2 = .06$ (medium) and $\eta^2 = .14$ (large) を用いた。

参考のため過去 5 年間の回収率を表 1 に示しておく。2020 年度は、調査方法を質問紙調査から Web 調査へ変更した初年度のため、回収率が例年より低くなっている。

表 1 年度別に見た 4 年次アンケートの回収率

2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度 (Web 調査)	2021 年度 (Web 調査)	2022 年度
83.9%	83.8%	85.9%	76.3%	85.6%	80.9%

(1)授業に対する満足度の集計・分析結果

「授業全般」、「全学共通カリキュラムの科目の授業」、「第一外国語科目等の英語の授業」「第二外国語科目の授業」「学科科目（専門）の授業」「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」の6つのカテゴリー別に、大学4年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の肯定的な回答3つを合計した割合は、「授業全般」「全学共通カリキュラム」「第二外国語科目の授業」「学科科目（専門）の授業」「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」の項目で9割以上であった。「第一外国語科目等の英語の授業」も8割を超えており、授業に対する満足度は全体的に高いと言える。

表2 授業に対する満足度

	大変満足 している	満足 している	どちらかと 言えば満足 している	どちらかと 言えば満足 していない	満足 していない	全く満足 していない
	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)
授業全般 (n=731)	16.8 (123)	51.6 (377)	27.5 (201)	3.7 (27)	0.4 (3)	0 (0)
全学共通 カリキュラム (n=730)	16.4 (120)	50.3 (367)	29.9 (218)	3.3 (24)	0.1 (1)	0 (0)
第一外国語科目等 の英語の授業 (n=731)	12.9 (94)	38.6 (282)	33.7 (246)	12.0 (88)	2.3 (17)	0.5 (4)
第二外国語科目の授業 (n=730)	18.4 (134)	45.9 (335)	28.5 (208)	6.2 (45)	0.7 (5)	0.4 (3)
学科科目（専門）の授業 (n=730)	28.7 (209)	47.7 (348)	20.9 (152)	2.5 (18)	0.3 (2)	0 (0)
卒業論文、 Final Presentation、 数学講究、情報理学講究 (n=728)	29.7 (216)	44.8 (326)	20.9 (152)	3.8 (28)	0.7 (5)	0.1 (1)

授業に対する満足度を専攻別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかと言えば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1と点数化し、それぞれの項目の平均値及び標準偏差を算出した（表3～表8）。

表3～表8は、専攻別に見た授業に対する満足度に関する6項目の平均値および標準偏差を示している。全ての項目かつ専攻で、満足度の平均値が4.0以上となった。効果量は小さく、全ての項目で専攻による違いは見られない。

表3 専攻別に見た「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.73	0.804	108	$\eta^2 = .034$
哲学	5.15	0.732	26	
日本文学	4.99	0.614	78	
歴史文化	4.90	0.700	71	
国際関係	4.66	0.868	77	
経済学	4.92	0.737	52	
社会学	4.97	0.810	36	
コミュニティ構想	4.82	0.635	33	
心理学	4.81	0.758	68	
コミュニケーション	4.68	0.747	102	
数学	4.56	0.854	43	
情報理学	4.80	0.833	35	
合計	4.81	0.769	729	

表4 専攻別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.69	0.732	108	$\eta^2 = .042$
哲学	5.04	0.720	26	
日本文学	4.97	0.664	78	
歴史文化	4.87	0.773	71	
国際関係	4.69	0.877	77	
経済学	4.94	0.770	53	
社会学	5.08	0.649	36	
コミュニティ構想	4.91	0.641	32	
心理学	4.63	0.771	68	
コミュニケーション	4.72	0.695	102	
数学	4.51	0.798	43	
情報理学	4.88	0.686	34	
合計	4.79	0.752	728	

表5 専攻別に見た「第一外国語科目等の英語の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.50	1.085	109	$\eta^2 = .041$
哲学	4.77	1.107	26	
日本文学	4.55	0.750	78	
歴史文化	4.56	0.857	71	
国際関係	4.36	1.075	77	
経済学	4.77	0.954	53	
社会学	4.80	0.964	35	
コミュニティ構想	4.39	1.116	33	
心理学	4.15	0.919	68	
コミュニケーション	4.29	0.960	102	
数学	4.14	0.804	43	
情報理学	4.56	0.927	34	
合計	4.46	0.976	729	

表6 専攻別に見た「第二外国語科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.65	1.062	108	$\eta^2 = .026$
哲学	5.04	0.735	25	
日本文学	4.77	0.788	78	
歴史文化	4.85	0.786	71	
国際関係	4.61	1.028	77	
経済学	4.81	0.982	53	
社会学	5.17	0.737	36	
コミュニティ構想	4.76	0.830	33	
心理学	4.65	0.787	68	
コミュニケーション	4.67	0.836	102	
数学	4.56	0.666	43	
情報理学	4.82	0.834	34	
合計	4.74	0.881	728	

表7 専攻別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.93	0.930	109	$\eta^2 = .049$
哲学	5.38	0.637	26	
日本文学	5.27	0.733	78	
歴史文化	5.09	0.654	70	
国際関係	4.92	0.757	77	
経済学	5.13	0.735	53	
社会学	5.06	0.674	36	
コミュニティ構想	5.09	0.678	33	
心理学	5.13	0.827	68	
コミュニケーション	4.93	0.725	101	
数学	4.58	0.763	43	
情報理学	4.85	0.925	34	
合計	5.02	0.787	728	

表8 専攻別に見た「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.95	0.901	108	$\eta^2 = .024$
哲学	5.42	0.578	26	
日本文学	5.00	0.837	78	
歴史文化	5.13	0.827	71	
国際関係	4.88	0.858	77	
経済学	5.11	0.751	53	
社会学	4.91	0.887	35	
コミュニティ構想	5.15	0.755	33	
心理学	4.85	1.118	67	
コミュニケーション	4.90	0.806	101	
数学	4.79	0.804	43	
情報理学	5.09	0.866	34	
合計	4.98	0.863	726	

次に、表 2 にある 6 項目の得点を合計し項目数で割った項目平均 (n=733, M=4.80, SD=0.671, 最大=6, 最小=1, 因子分析で一次元性も確認。α = .885) を算出し (以降「授業満足度得点」とする)、専攻別に満足度得点を比較した。

表 9 は、専攻別に見た授業に対する授業満足度得点の分析結果である。全ての専攻で、平均値が 4.0 以上であり、授業に対する満足度が高いと言える。効果量は小さく ($\eta^2 = .043$)、授業満足度得点に関する専攻の差は見られない。

表 9 専攻別に見た授業満足度得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.74	0.762	109	$\eta^2 = .043$
哲学	5.13	0.606	26	
日本文学	4.93	0.553	78	
歴史文化	4.90	0.572	71	
国際関係	4.69	0.736	77	
経済学	4.95	0.736	53	
社会学	5.00	0.634	36	
コミュニティ構想	4.85	0.619	33	
心理学	4.70	0.667	68	
コミュニケーション	4.70	0.644	102	
数学	4.52	0.596	43	
情報理学	4.84	0.637	35	
合計	4.80	0.671	731	

図1～図6は、2018年度～2022年度の授業満足度について、「大変満足している」「満足している」「どちらかと言えば満足している」の回答結果を比較したグラフである。なお、「第二外国語科目」の授業に対する満足度（図4）は、2019年度から設問を追加した。

「第一外国語科目等の英語の授業」の肯定的な回答の合計値は、2020年度から上昇しているものの、例年80%前後と他の項目と比べて低い傾向があり、若干物足りなさを感じているようである。「第二外国語科目」も同様の傾向であったが、2022年度に90%を超えた。その他の項目は2018年度から概ね90%以上を維持しており、本学の授業に対する満足度は非常に高いと言える。

2022年度は全ての項目で、肯定的な回答を合計した割合も、「大変満足している」の割合も増加した。特に「第一外国語科目等の英語の授業」と「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」の肯定的な回答は約5ポイント大幅に上昇した。「卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究」は主に4年次に履修する科目であるため、コロナ禍の影響が落ち着きを見せ、ほぼ通常通りの授業形態に戻った時期である。オンライン授業が大半を占めていた2年次～3年次に比べ、思い通り学べている実感が強まったからではないかと推察される。

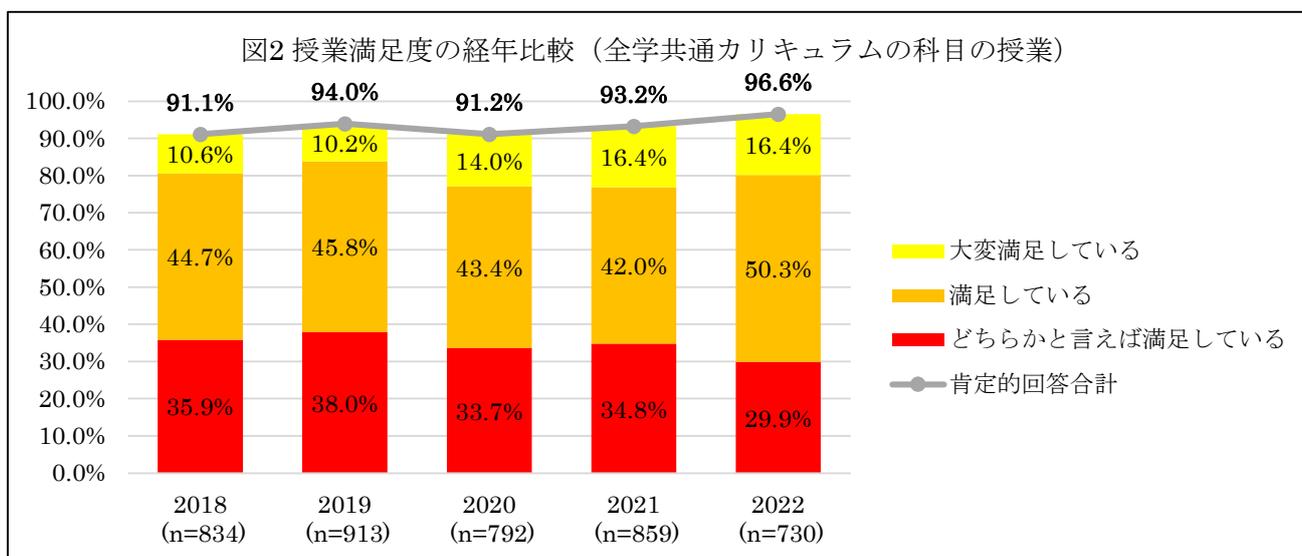
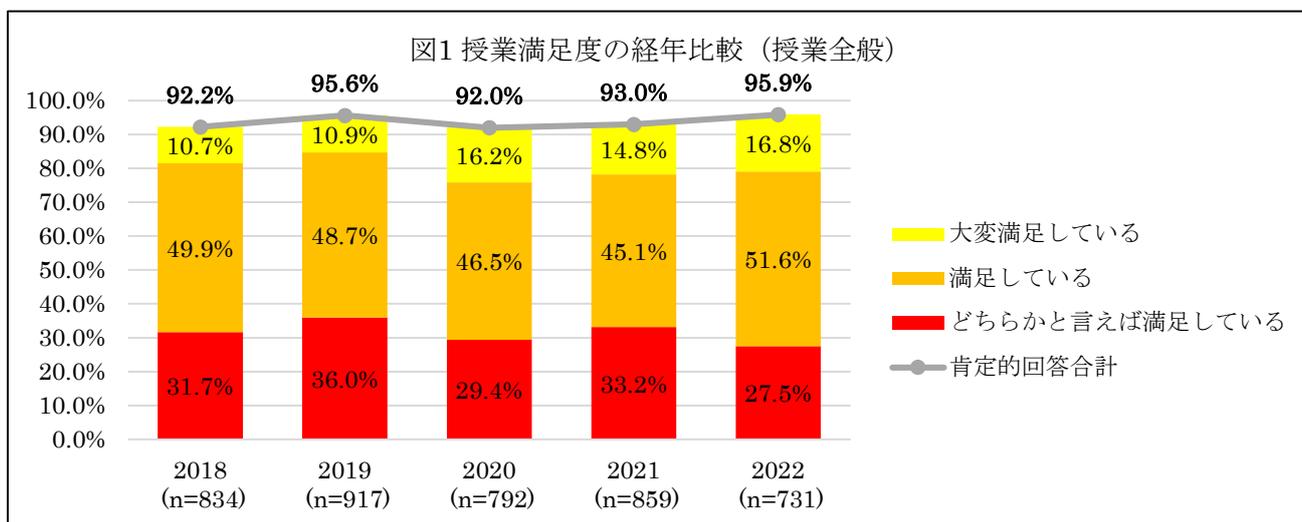


図3 授業満足度の経年比較（第一外国語科目等の英語の授業）

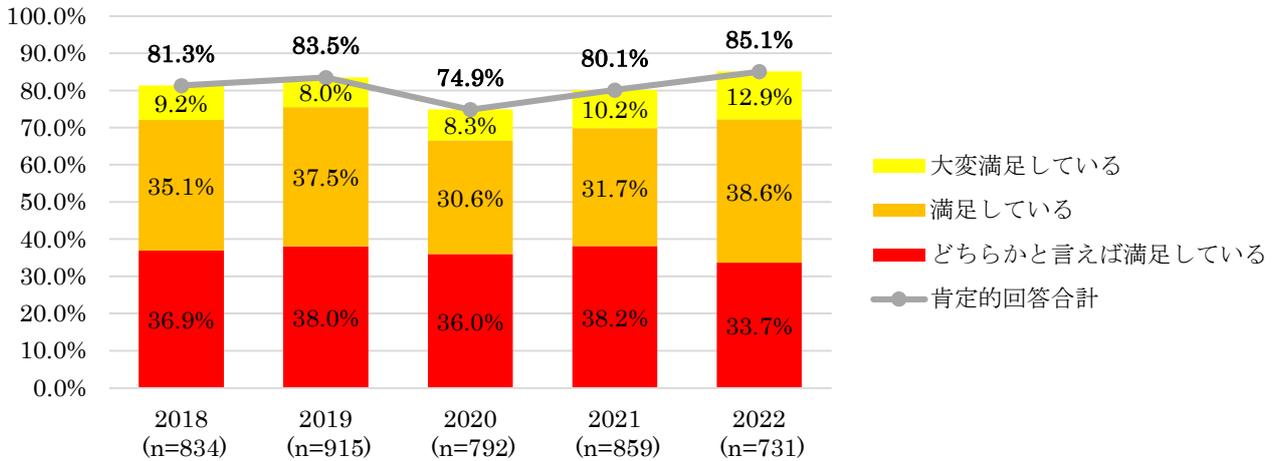


図4 授業満足度の経年比較（第二外国語科目）

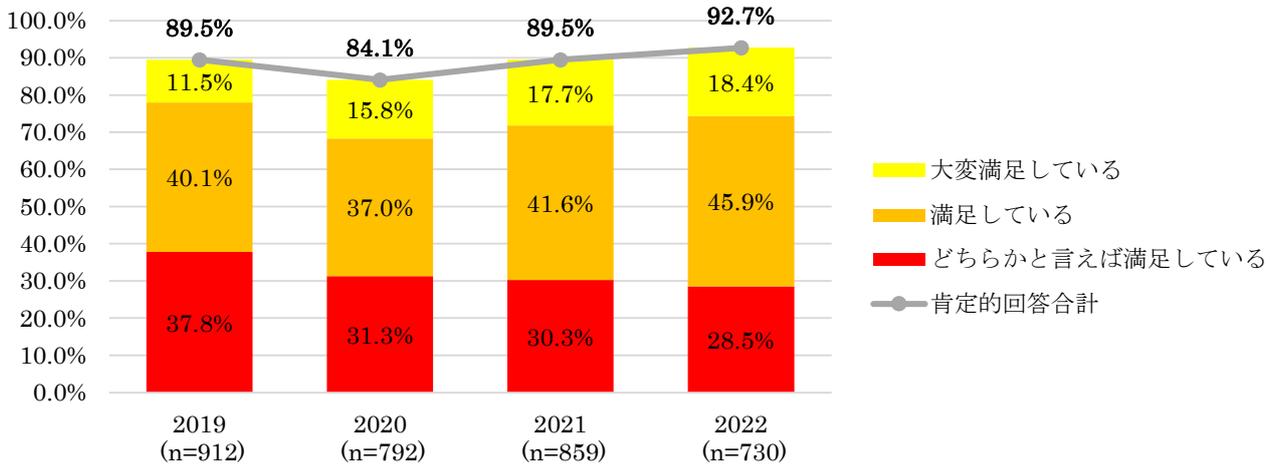


図5 授業満足度の経年比較（学科科目（専門）の授業）

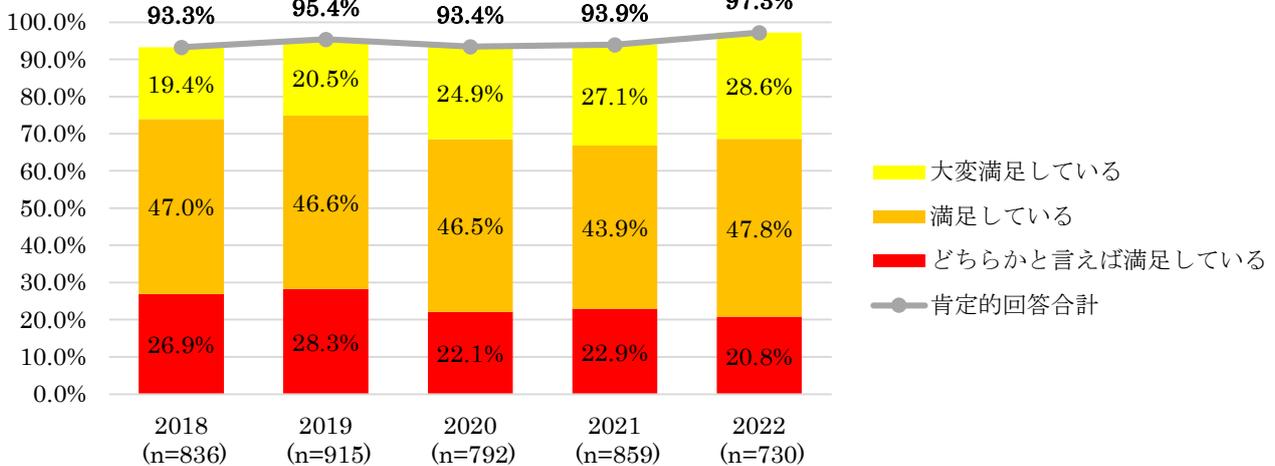
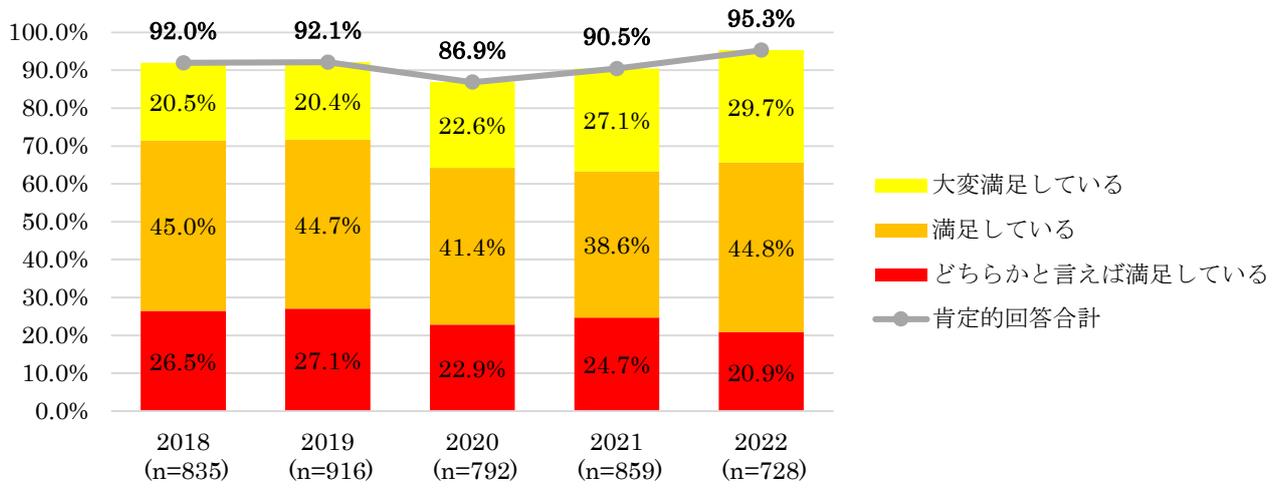


図6 授業満足度の経年比較
 (卒業論文、Final Presentation、数学講究、情報理学講究)



(2) 理解が深められたと思う項目の集計・分析結果

図7は、「大学での4年間の学びを通じて理解を深めることができたと思うこと」を調べるため、「日本の歴史と文化に対する理解」「多文化・異文化に対する理解」「国際的な諸問題に対する理解」「現代社会で生起する諸問題に対する理解」「自然や環境問題に対する理解」「自己の身体に対する理解」「キリスト教に対する理解」「ジェンダー問題に対する理解」「自分の専攻分野に関する理解」「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の10項目について集計した結果である。

「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答3つを合計した割合を見ると、「自分の専攻分野に関する理解」が最も高く、98.0%だった。次に「ジェンダー問題に対する理解」で96.7%、「自分の専攻分野に隣接する分野の理解」の94.1%、「キリスト教に対する理解」の92.5%であった。

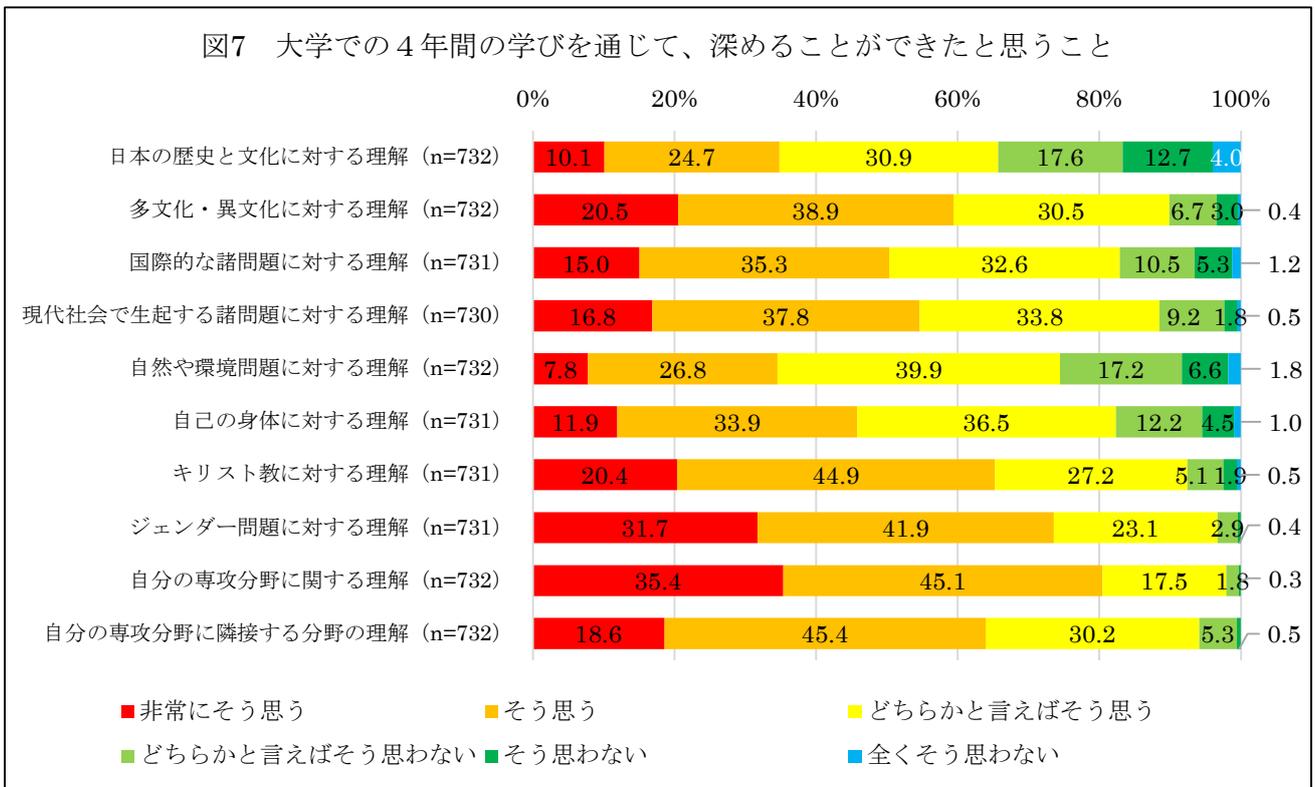


図7に示した10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「理解総合得点」(n=732, M=4.56, SD=0.676, 最大=6, 最小=1; 因子分析で一次元性も確認。α=.868)として、専攻別に理解総合得点を比較した。

表10は、専攻別の理解総合得点である。平均値が一番高い専攻でM=4.75、一番低い専攻でM=4.23だった。効果量は中程度($\eta^2 = .061$)、専攻間における理解総合得点の差が僅かに見られた。

表10 専攻別の理解総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.57	0.728	109	$\eta^2 = .061$
哲学	4.69	0.564	26	
日本文学	4.72	0.562	78	
歴史文化	4.71	0.612	71	
国際関係	4.70	0.678	77	
経済学	4.61	0.734	53	
社会学	4.75	0.456	36	
コミュニティ構想	4.58	0.622	33	
心理学	4.23	0.763	68	
コミュニケーション	4.46	0.703	102	
数学	4.26	0.453	42	
情報理学	4.40	0.695	35	
合計	4.56	0.675	730	

(3) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

図8は「大学4年間の学びを通じてどのようなスキルや力を身につけることができたと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解できる力」の10項目について分析したものである。

全ての項目で「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答3つを合計した割合が8割を超え、本学での学びを通して汎用的なスキルを身につけられたと考えている学生が多い事が分かった。その中でも、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の割合が高くなった。

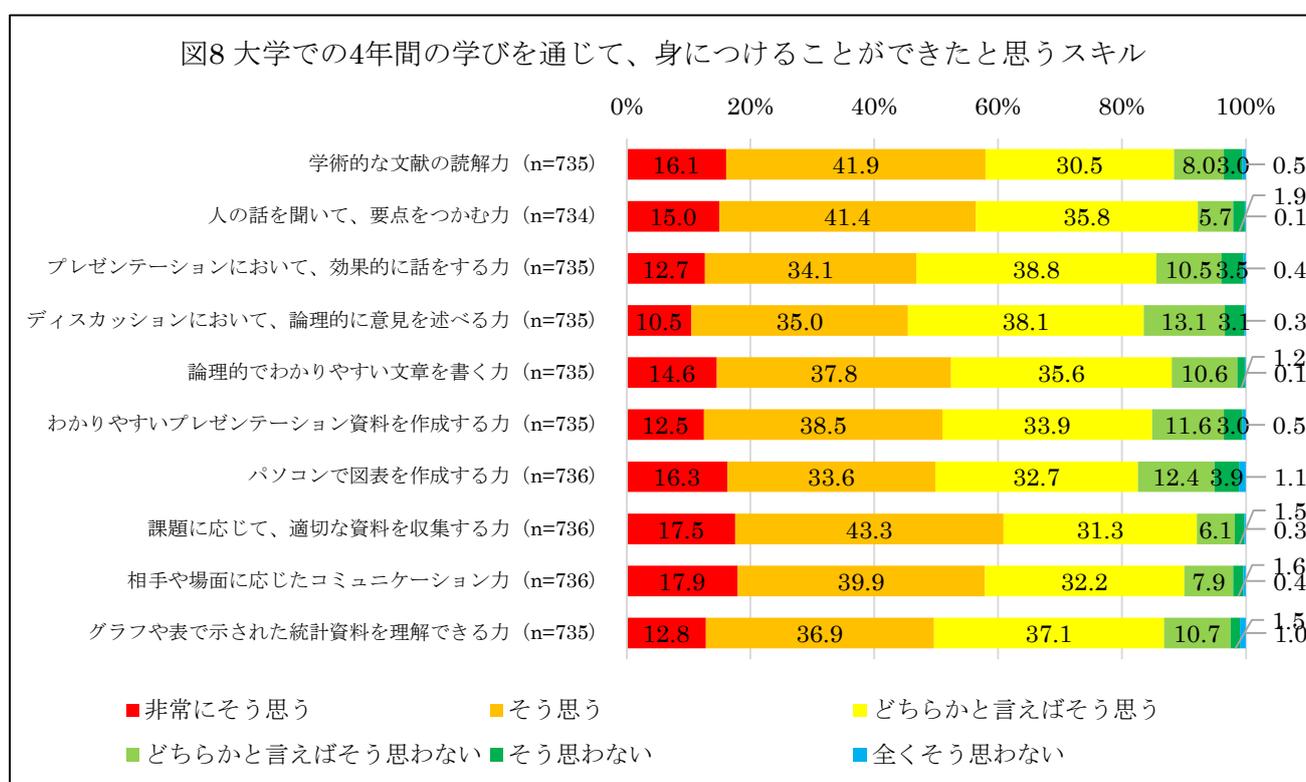


図8に示した10項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(n=736, M=4.51, SD=0.763, 最大=6, 最小=1; 因子分析で次元性も確認。α=.933)として、専攻別にスキル総合得点を比較した。

専攻別にスキル総合得点を見ると(表11)、一番高い専攻でM=4.66、一番低い専攻でM=4.10だった。効果量は小さく($\eta^2 = .029$)、スキル総合得点に関する専攻の差は見られない。

表11 専攻別のスキル総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.56	0.690	109	$\eta^2 = .029$
哲学	4.50	0.737	27	
日本文学	4.61	0.639	78	
歴史文化	4.44	0.728	71	
国際関係	4.49	0.781	77	
経済学	4.48	0.858	53	
社会学	4.65	0.695	36	
コミュニティ構想	4.61	0.726	34	
心理学	4.63	0.872	68	
コミュニケーション	4.43	0.851	103	
数学	4.10	0.649	42	
情報理学	4.66	0.716	36	
合計	4.51	0.762	734	

(4) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

図9は、「大学での4年間の学びを通じてどのような能力を身につけることができたと思うか」を調べるため、「問題を発見し、的確に把握する力」、「状況を的確に判断する力」、「課題に応じ、収集した情報を、効果的に活用する力」、「物事を偏りなく多角的に検討する力」、「問題を解決する力」、「肯定的な意味で批判的に考える力」、「数字やデータに基づいて物事を考える力」、「自らを律して行動できる力」、「責任感」、「倫理観」、「率先してグループをまとめリードする力」、「人間関係を築いたり調整したりする力」、「主体的に行動する力」、「自主的に学習を継続する力」の14項目について分析したものである。

「率先してグループをまとめリードする力」を除いた13項目で、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答3つを合計した割合が8割を超えた。

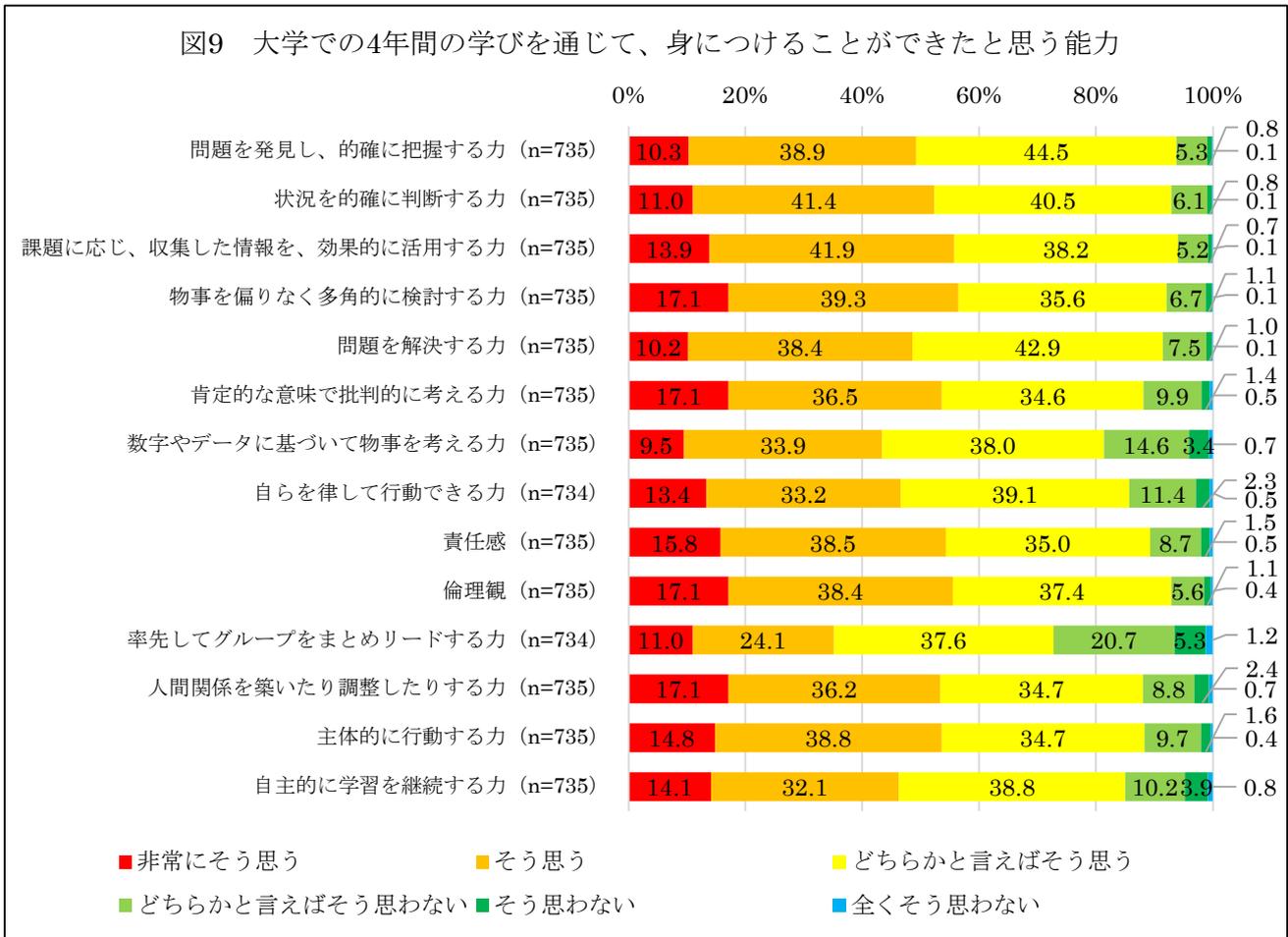


図 9 に示した 14 項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(n=735, M=4.50, SD=0.727, 最大=6, 最小=1 ; 因子分析で一次元性も確認。α = .951) として、専攻別に能力総合得点を比較した。

専攻別に能力総合得点を見ると (表 12)、平均値が一番高い専攻で M=4.80、一番低い専攻で M=4.39 だった。効果量は小さく ($\eta^2 = .013$)、能力総合得点に関する専攻の差は見られない。

表 12 専攻別の能力総合得点

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.48	0.724	109	$\eta^2 = .013$
哲学	4.80	0.607	27	
日本文学	4.55	0.639	78	
歴史文化	4.53	0.699	70	
国際関係	4.49	0.814	77	
経済学	4.49	0.788	53	
社会学	4.60	0.625	36	
コミュニティ構想	4.39	0.742	34	
心理学	4.49	0.799	68	
コミュニケーション	4.39	0.780	103	
数学	4.43	0.629	42	
情報理学	4.49	0.633	36	
合計	4.49	0.726	733	